



夜が長くなってうれしいね。
—フクロウ—



大和市民活動センター[拠点やまと] 第 34 号 2009 年 11 月 20 日発行



絵: 上当イ「徳之島の闘牛」

102歳のちぎり絵作家上当イさんが3歳のとき、お母さんがイさんの妹を出産する際に亡くなった。徳之島(鹿児島県)にお産婆さんがいなかったからだと思い、「お産婆さんになろう」と決心して上京。電車の中で“婦人の職業の早道は美容師”という新聞を見て、美容師ならどこでも仕事ができると思い、文部大臣認可の「女子美髪学校」に入学。20歳から60歳までの美容師生活がスタート。その後の人生は次回で紹介します。

村をあげてのイベントが「闘牛」。イさんのお母さんの実家で飼っていた牛が負けそうになると、頑張らせようと飛び出していった、係りのおじさんに止められた。活発な少女時代を思い出して制作したちぎり絵です。

*この表紙の絵は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

ご来場ありがとうございました

第4回市民活動団体交流まつり カッコーフェスタ'09

～活かそう！ひろがりのわ～

11月7日(土)、8日(日)開催しました。
市民活動の輪が大きくひろがった2日間でした。

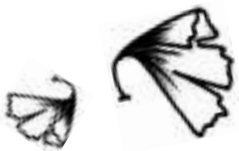
みんな、
来てくれてありがとう



カッコーフェスタのシンボル
カッコちゃん

<送付の際、同封されているご案内>

・連続共育セミナー第(26)回「知れば知るほどおもしろい大和市 Part5」のお知らせ



ひろがりました 活動のわ



第4回大和市民活動団体交流まつり

カッコーフェスタ'09

11月7日(土)8日(日)10:00~16:00

シールになったカッコちゃん

他の団体と交流ができてよかった

「来年、また会いましょう」と他の団体と交流が深まってよかった、と感想を伝えてきてくれたGさん。活動交流まつりですから…(引地川水とみどりの会)

子どもたちが企画したゴミの分別ゲーム

企画から運営まで「こどもエコクラブ」のメンバーが担当。川の中にあるゴミを拾って、燃えるゴミと燃えないゴミに分別するゲームには、子どもも大人もたくさんの人が参加。川だけでなく、街中がゴミのない大和市を目指しましょう。(こどもエコクラブ)



楽書き詩人と格闘詩人+似顔絵描き

インスピレーションで詩と絵を描く“楽書き詩人”。目を見てその人の力を引き出す文字を書く“格闘詩人”。母子のうれしそうな顔を前にスラスラ描いていく似顔絵描き。微笑ましい光景が繰り返されました。(ありがとうの和の輪)

大道芸のラッキーさん登場

バランス芸に挑戦する子どもたち。なかなか上手く出来ない。さすが、ラッキーさん。ちょっと息が荒くなってたけど、上手。(大和南京玉すだれ研究会)

アルバムを手作りで

お母さんたちが賑やかにアルバム作り。お父さんが子どもの面倒をみている姿が微笑ましく、家族のあたたかさがアルバムに表れていました。(マジカル クロップ)

ボランティアはマカオからの留学生

やまとボランティア総合案内所に相談に来たマカオ出身の留学生、セラさんが、来日1か月とは思えない流暢な日本語で大活躍。受付以外にも次から次へとやれることを探して頑張ってくれました。

ストッキングで応急手当

ストッキングを使っての応急手当のしかたを体験。なるほど、知っていれば、いざという時にきっと役立つはずです。(やまと災害ボランティアネットワーク)

国際交流は4団体

自立のための支援活動をしている4団体は、リサイクル品やグッズ、コーヒー、紅茶販売など、支援地を紹介しながらそれぞれの活動をアピールしていました。(WE21ジャパン大和、いきいきフォーラム2010、チームピースチャレンジャー、地球の木)

ゆず・かぼす・ぎんなん
公所地区で採れたゆず・かぼす・ぎんなんが販売されました。
秋の実りのおすそ分け。(なんでもプラス地域ネット)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

10月28日(水)晴れ

登録300番目の団体「マジカル クロップ」のみなさんに、心ばかりの記念品を手渡しました。

手作り品バザー

エコ布ぞうりなどの手作りの販売。(ナルク横浜)
Nさんが中心となって、コツコツと手編みしたアクリルたわし。本、小物も販売。ちりも積もれば…で、[拠点やまと]の新たな事業展開の足がかりとなりました。(拠点やまと)

折り紙で農業祭
野菜や昆虫が出来上がっていく。不思議、不思議。まさに芸術品。
サークルの人たちの手は「魔法の手」。挑戦して出来あがった時のうれしさ。みなさん、とてもいい笑顔でした。(おりがみサークル)

親子に人気のバルーンアート

パン、パンと風船の割れる音が派手に繰り返された。自分で作った風船ですもの、大事に持って帰りました。いつまでもしぼまないようにと、祈る気持ちで見送りました。(バルーンアートサークル)

カイロプラクティックで心も体も快調に

腰の具合が悪いと思っていたら、首の骨がずれていると指摘され、納得のMさん。Sさんは歪みをゆるめてもらって、上がらなかった腕がスッと真上まで上がった。みなさん「あー、スッキリした!」と感激。(カイロプラクティック普及会)

スタンプラリーに挑戦

景品は「大和のぎく作業所」の一筆箋やストラップなどを用意しました。



“カッコーパスタ”は I・I(愛・愛)コンビで [拠点やまと]オリジナルの“カッコーパスタ”は塩味、砂糖味、カレー味の3種類。一度食べたらクセになる美味しさ。ガス台の前でひたすら作り続けたIさんと、売り子名人のIさんのI・Iコンビで完売。

タオル帽子作り
抗がん剤の副作用で毛髪が抜けてしまった人のためのタオル帽子を作り、販売しました。(なんでもプラス地域ネット)

「くじらのしっぽ」の手塚さんの詩を朗読
 ドラマティックカンパニーYamato50

自殺予防という重いテーマの研修で講師との話にリンクさせて詩と文をドラマティックカンパニーYamato50のメンバーが朗読しました。詩は「くじらのしっぽ」の手塚郁恵さんの詩集「こころ ことば いのち」から次の二篇が読まれました。

『あなたに「はじめに」かえて』
 『そこにいるには 誰?』

*参加者の声

- ・朗読を入れることにより、講義にメリハリがきて最後まで話に集中できた。
- ・自分で文章を読むより、朗読で耳から伝わった方が心にしみる感じがします。

ドラマティックカンパニーYamato50は「大和の人財」にスポットを当て広く発信し、共に創造にかかわることで市民と街のプライドを創り上げていく活動をしています。

センター登録団体同士がつながり、今回の講演と朗読のコラボレーションとなったことに、市民活動センター発の“ひろがりの わ”を実感しました。(報告・関根孝子)

第2回やまと国際アートフェスタ

学校の先生やご家族から「この絵こそ“私たちのたからもの”です」と言われました。

～第2回やまと国際アートフェスタ実行委員長・長谷部美由紀さん談～

開催の2日目、10/25(日)の午後、イオンモール大和の一隅にあるウォーターコートに子どもたちの「絵」を見に行きました。その狭い会場は「絵」もぎっしりと詰まっていたのですが、見る人たちもたくさんいて、そこにはなにか濃い熱気がありました。絵は去年の投稿のほぼ倍192点がここにあり、最終的な来場者数は去年の1.2倍の約1200名カウントされた(実行委員長の長谷部さん談)。今回の絵のテーマは「私のたからもの」。その解釈は実にさまざまに自由だ。家族、平和、友達、スポーツ、飼っている虫……。会場のメッセージボードに貼付されたポストイットを見る。

「世界にはいろいろな子どもがいることを伝えている」「忘れていたものを思い出した」「いいものを見せてもら

った」、同じ国の子どもや親も見てくれるだろうと中国語やスペイン語で書かれたものもあった。来年の「やまと国際アートフェスタ」が楽しみだ。(報告・小杉皓男)

*「あの手 この手」7,8,9月号の表紙の絵は第1回やまと国際アートフェスタ入賞作品を掲載しています。



「センター」のある日ある時

11月14日(土)雨のち曇り

お父さんといっしょに来館したふゆかちゃん(7歳)が、この「あの手この手」の宛名シール貼りを手伝ってくれました。ありがとう。



*みなさんのイキイキとした“活動の現場から”の投稿をお待ちしています。

25回
 今度の連続共育セミナーは
 知れば知るほどおもしろい大和市ですPART4
大和市を知りたい
 もっと
 です。
 お話しリベルタの 丸山佐和子さん
 日時: 11月30日(月) 18:30~20:30
 会場: 大和市民活動センター

連続共育セミナー 第(25)回は

「知れば知るほどおもしろい大和市 PART4」

日時: 11月30日(月) 18:30~20:30

場所: 大和市民活動センター会議室

暮らしに役立ついきいき生活情報誌「リベルタ」の編集長の丸山佐和子さんをゲストにお迎えします。取材現場から見えてきた“おもしろい大和市”を話していただきます。

第(26)回の連続共育セミナーは

知れば知るほどおもしろい大和市PART5

「おいしい大和を知りたい」

12月19日(土) 18:30~20:30

大和市民活動センターセンター会議室にて開催。

大和のお奨め品を、みんなで飲んで、食べて、大和のことを語りあって、おいに盛り上がりましょう!

参加費は1,000円。

第 86 回 ～「わが街・やまと」への思い～

10/20(火)＜ドラマティックカンパニーyamato50＞

大和州市制50周年の記念として、「わが街・やまと」の映画を撮影しました。「撮影中に生まれた人と人とのつながりを大切にしていきたい」と映画に出演したメンバーとスタッフで発足しました。演劇・音楽・ダンス・絵画などの新人の発掘を行い、それを通じて大和の街の素晴らしさを伝える活動を続けていきたい。11月21日(土)～23日(月)にイオン大和3階ホールで「大和州市制50周年記念共催事業・大和州市民活動推進補助金事業ドラマティックな絵画展」を開催します。この絵画展では「イラスト・絵画コンテスト」を行いご来場のみなさまに投票でコンテストに参加していただきます。また大和市在住のアーティスト3名の作品を展示し、見て感じて楽しめる展覧会を目指していますので、ぜひ多くの方に鑑賞していただきたいです。

第 87 回 ～活かしたい！ひろがりの わ～

11/3(火)＜カッコーフェスタ'09 参加団体＞

「引地川水とみどりの会・こどもエコクラブ」の藤原弘輝君と古川泰成君が川の中のゴミを拾って分別するゲームの説明。「ありがとうの和の輪」の“楽書き詩人ひそか”さんは相手の目を見てその人のイメージを絵と詩で表現するという。ちなみにジョニーさんは黄緑色とオレンジがかかった色のイメージとのこと。当日、どんな絵と詩が生まれるか、楽しみです。
[拠点やまと]はスタンプラリーとカッコーパスタ販売をPR。ラジオを聴いている人が行ってみよう！という気になってくれたでしょうか。

第 88 回～ことばを持たない無意識のメッセージ～

11/17(火)＜くじらのしっぽ＞

無意識と語り、無意識とワークする「くじらのしっぽ」は今年から活動をはじめましたが、前身は16年前中央林間の「ぽこぽこ」(イタリア語でゆっくりゆっくりという意味)という古い家での「こころの相談室」から始まりました。私たちは自分がほんとうに感じていることに気づけず、ある行動パターンを無意識的に繰り返していることが多いのです。そこから、いろいろな悩みや苦しみが生まれてきます。そこで、身体の感覚から無意識とつながることによって、押し込められていた感覚に気づくことができます。そこから、自分も知らなかった本来の自分に出会えるのです。

「朝ラジ☆ホットスクランブル」は再放送があります。

当日の 15:00～16:00 22:00～23:00

ラジオを聴いたら感想を FAX、メールで[FMやまと]へ。
放送中に読まれるかも?

FAX :046-265-2777

E-mail :morning@fmyamato.co.jp

＜これからの出演団体＞

第 89 回 12/1(火) 引地川水とみどりの会

第 90 回 12/15(火) なんでもプラス地域ネット

★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★

11月16日(月)曇り

「朝ラジ☆ホットスクランブル」に市民活動課の職員2人と[拠点やまと]の関根会長が出演。協働事業についてカッコーフェスタについて話した。

＜詳しくは次号でお知らせします＞

11月には木々の紅葉も深まり、自然の風趣が感じられる。梢の柿紅葉も、落葉し、思わず拾って見たくなるほどの美しいものがある。(松村 襄)

「道ばた絵師、礼は志」とあります。娘の似顔絵を描いてもらった母親がその子に「1円玉ある？」絵師の笑顔が寂しく見えました。(望月則男)

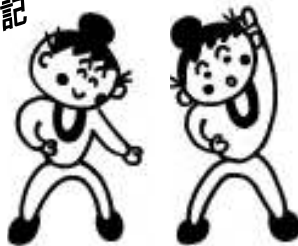
フェスタに大道芸が今年も出演。来場の子ども等に芸の体験を。うまくできる、できない、挑んでいる子ども等の姿に”遊び”を見た。(浅見正明)

人が集まる講座づくりの研修に参加。カリスマ講師に興味津津。コツは心に響くタイトルと対象をしぼること。納得の内容。実践あるのみ。(村山真弓)

今月は「皇室の名宝ー日本美の華」展、「古代ローマ帝国の遺産」展など様々な芸術作品に触れた。最高の傑作はMJ…THIS IS IT!(中山みゆき)

熱血編集後記

介護予防になるんですって。がんばろっと。



【やまと いきいき健康体操】

一軒置くI宅が建て直しのため、家屋が全部取り壊された。大量の建築廃材はどこに行き、どのように始末されるのか。その表示なしが気になる。(小杉皓男)

カッコーフェスタでは準備の段階からスタッフみんなが楽しみました。特にカッコーパスタ製造・販売で意気ピツタリのI, Iコンビ誕生！売り上げのほうは? (櫻井貞代)

カッコーフェスタで[拠点やまと]スタッフ望月のイラストによる「やまといきいき健康体操」を公開。指を使った脳トレ入りで、あれ？あれ？の笑いの中で体操を行いました。(関根孝子)

広島原爆火災の火を絶やさずに灯し続け、原爆実験の地まで行脚。封鎖されていた“ゲート”を開けさせたドキュメント映画の上映会を実現させたいです。(石川美恵子)

*今月号の用紙はやまぶき色。センターのイチョウも黄色く色づき始めました。落ち葉かきの季節です。



[拠点やまと]が制作発行する
大和市民活動センターの広報紙・月刊「あの手 この手」。
11月20日付け第34号をお届けします。

今、私の手の平に木の実がある。色は黒、大きさはパチンコ玉より一回り大きい。特長はとにかく固い。木のテーブルに落とすと、カチンと音を立ててはねる。

これ、なんの木の実でしょう。ヒントは三つ。①羽根つきの羽の球（たま） ②石鹼（せっけん） ③笛。今どきこれは一見とんでもない脈絡のないヒントのように思えます。でも、高齢の方ほど正解率は高くなる要素を持っているのですが。

答えは……「ムクロジ」の実です。

このムクロジの実は先日、大和市の「泉の森」にある[しらかしのいえ]の前庭に1本あるムクロジの木から採集してきたもの。

ムクロジは昔から季節の巡りに応じて、毎年毎年秋にたくさんの木の実をつくってきた。よく神社に植林されていて、そんなに珍しい樹木ではない。気付くと大和市内のあちこちにムクロジはある。けれども、ヒントに挙げた羽根つきはもはや「絶滅危惧種」。

50年前は確かにあった羽根つき。お正月の風景でした。このカチンカチンと羽の球（たま）を打つ音が家の中まで聞こえたものでした。（下段に[拠点やまと]メンバー、60歳代の望月さんに正月、羽子板で羽を打つ姿を思い出して描いてもらった）

ヒントの②に石鹼をあげました。このムクロジの実（種）を包む果皮を水に入れてもむと、なんと細かな泡が泡立つのです。サポニンを含んでいるので明治時代まで、実際石鹼のように使われていたとか。

さて、今度は③の笛。種がはいっていて黄色だった果皮が日を置き、黒く固まったら、蓋（ふた）状のところを外し、ふーっと強く吹くと、中にある種がくるくるっと踊って、野鳥がさえずっているように鳴かすことができる。

ほんの50年から100年のちょっと前まで、あそびに日々の生活に例えばこのムクロジ実を役立て、季節に添って生きてきた先人の知恵を見ることができる。自然の子である人間の生活。それがいつしか自然を奴隷のようにこき使ってきてしまって、どこか危うい「快適便利な」今があるように思います。近年の天候や気候の異変は自然の復讐のサインなのでしょう。

今、手の平にある黒く固いムクロジの実の声を聞きたいと思う。

2009/11/20 [拠点やまと]広報係・小杉 皓男 記

